

私は工作が好きで、毎日のように工作室で作業をして過ごしたのですが、Adam 宅に招かれての最後の日に、デジタルノギスをプレゼントして頂きました。よく見ると、裏に「近藤猛 工作上手」と漢字で彼自身の手彫りがしてあり、それを見て思わず涙が出そうになりました。同じくエイムズ研究所所属で親しくして下さっていた古川裕次先生(NMR の達人)から、ある日 Adam が適当な漢字を教えて欲しいと尋ねてきたのだ、と後になって教えて頂きました。このノギスは一生の宝物です。

「物性研究所にて」

物性研に初めて来たのは学生時代に辛グループの装置をお借りしに来たときのことです。物性研近辺はなんだかキャンパスらしくない近未来的イメージで、あたかも宇宙ステーションにでも舞い込んだような印象でした。ゲストハウスから物性研に向かう途中の宇宙線研建物のそばにある摩訶不思議な丸い水たまりを眺めつつ、はてここからどんな宇宙船が飛び立つのやら、なんて妄想したものです。そんな物性研も少しずつ身近な存在になり、それでもなお学生時代に通っていた自分を思い返すとまだまだ見合っていない存在の様でもあります。頭を垂れて何やら考えにふけりつつ廊下を歩く辛先生に対し学生の自分には話しかけずらいオーラを(勝手にですが)感じていましたが、それも今となっては親しく接して頂いており、これまた不思議なものです。何もかもまずは物性研が本当に自分の居場所だと気持ちを根付かせることからスタートせねばなりません、「世界一の…」と宣伝できるような装置開発も視野に入れつつ、その名に恥じない活躍が出来ればと意気込んでいます。

こうして振り返ってみると、いろいろな幸運、そして素晴らしい方達との出会いが有って今の自分がいることに気づかされます。これからもそれは同じでしょう。それも、一途に研究に取り組んできたおかげであり、その初心は忘れないでいたいものです。まだまだ未熟で不安な点も有るのですが、物性研究所がますます発展しますよう微力ながら身を捧げて行くつもりですので、今後とも何卒よろしくお願い致します。

